

2021（令和3）年度 道徳学習指導研究委員会 研究のまとめ

一 テーマ

子ども達が「道徳的価値を深め合う」指導の工夫

二 テーマ設定の理由

昨年度、道徳の評価について焦点化して研究を行ってきた。今年度は、改めて「授業」について焦点化していきたいと考えた。また、主体的対話的で深い学びを実現するため、道徳科では特に対話が重要であると考えた。そこで、教師からの一方的に価値観を押し付けるのではなく、子ども達が対話によって道徳的価値を深め合う授業を行っていききたいとの思いから、今年度のテーマを決定した。

三 研究の経過

研究は主に、①授業研究会への参加、②各自の授業実践、③委員同士の情報交換、の3つの方法によって進めた。新型コロナの感染拡大により、①については思うような活動ができなかったが、オンライン会議を充実させたことにより、委員同士の情報交換は密に行うことができた。

四 研究の内容

「子ども達が『道徳的価値を深め合う』」にはどのような指導の工夫ができるかを考え、各指導委員がそれぞれテーマを決定し、研究・実践を行った。

1. 「心のメーターによって意見を可視化し、多様な意見を認め合う道徳の授業」

～Google スプレッドシートを活用して～（上田市立菅平小学校・道徳委員長 北村 信）

(1) テーマ設定の理由

今年度道徳委員会でテーマとしている「子どもが道徳的価値を高めあう」ためには、児童同士の本音での対話、が特に大切であると考えた。

児童同士の対話を活性化させるためには、まず各自の考えを可視化することが有効であると考え、「心のメーター」を活用した授業実践を行った。考えを可視化してクラス全体で共有することで、児童同士の対話の切り口となると考えたからである。また、心のメーターを表すのに Google スプレッドシートを用い、考えをリアルタイムで更新することができるようにした。

この方法で年間を通じて実践を行い、成果と課題を検証した。

(2) 授業実践から（2021年11月19日（金）後期人権同和教育研修会 道徳公開授業 小5）

①授業構想シート

主題名：生命の尊さ ※学習指導要領 D-（19）	
生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	
授業者自身の主題（価値）の捉え 生命はかけがえのない大切なものであることは言うまでもない。年齢、人種、性別などすべての人間の命は平等に大切に扱われるべきものである。死は、周りの人を悲しませる。私自身、祖父母の死によって深く悲しんだ経験がある。自分の生命を大切にすることは、自分のためでもあり、家族や親族、友人、同僚など、自分に関わる全ての方のためでもある。決して自ら命を絶って良いものではない。自分の生命も、他人の生命も、平等に大切にしなければならない。	児童の実態（素地力・既習内容・興味関心） 教室で飼育している魚など、命あるものを大切にしようとする姿が見られる。また、人権映画を視聴した際に、人や動物の死に関する場面で涙を流すなど、感受性豊かに生命について捉えている姿も見られる。一方、嫌なことがあったときなどに、軽々しく「死にたい」などと発言する児童もいる（SCや医療などとも連携済み）。語彙力の少なさなどの要因も考えられるが、そのような発言から考えても、命の重みについて深く考えているとは決して言えない一面もある。
授業者自身の自己課題 児童が、「生命の尊重」について考えるような場面を、授業内外で十分に確保できていな	

い。
<p><u>授業者自身の資料の捉え(資料の価値)</u> 資料名「映画 アルマゲドン」</p> <p>この資料は、地球に迫る隕石に爆弾を仕掛け、爆発させることによって人類滅亡の危機を救おうとするSF物語である。遠隔起爆装置の故障により、誰か1人が隕石に残って自分もろとも爆破させなければならなくなる。そこで、クルーたちはくじ引きによって残る人を決めることにし、くじ引きの結果、若手の「AJ」がその役を担うことに決まった。しかし、直前でリーダーの「ハリー」が、強引に自らがAJの代わりに犠牲になるという行動をとる。ハリーの犠牲によって地球は守られ、AJを含めた他のクルーたちも無事地球に帰還することができた。映画としてはいわゆるハッピーエンドである。<u>授業では、ハリーの行動を単に自己犠牲の美学としてとらえるのではなく、家族などの残された登場人物の想いなども含めて考えさせたい。</u>ハリーの判断は正しかったか、そうでなかったかという正解は無い。そんな答えの無い問いについて考え、葛藤し、意見を交流させることで、ねらいとする価値に迫っていきたい。</p> <p>また、今回「生命の尊さ」を扱うにあたり「死」を取り上げる。現実場面で死を考えることは児童にとって大きな負担になると考え、あえて日常からかけ離れたSF映画を資料として用いることにした。</p>
<p><u>本時のねらい</u> 自分を犠牲にしたハリーの行動と、残された人々の想いについて考えることを通して、生命の尊さについて考える。</p>
<p><u>ねらいに迫る中心発問</u> 残されたAJやグレイスはどのような思いなのだろうか。</p>

②本時の展開

	学習活動	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 本時に考えるテーマを確認する。 映画の概要と主な登場人物を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> こわい。 地球を救いに行くチームはカッコいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書「生命(いのち)」 登場人物の写真を黒板に貼りながら説明する。中心となる3人の登場人物(ハリー、AJ、グレイス)の関係を確実におさえる。
展開 (30)	<ul style="list-style-type: none"> シーン1(くじの結果、AJが残ると決まるまで)を見る。約4分20秒 		<ul style="list-style-type: none"> 動画(シーン1)の再生。 内容の確認
	<p>発問 ○くじを引いたとき、AJはどんなことを思った?</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 意見を発表する。 シーン2(ハリーの行動、作戦の成功、帰還)を見る。約6分45秒 	<ul style="list-style-type: none"> つらい でも、やるしかない 失敗したらどうしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 板書はせず、テンポよく意見を取り上げたい 動画(シーン2)の再生。 内容の確認
	<p>発問 ○ハリーの行動は正しいと思いますか?(心のメーターに表しましょう)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 心のメーターに表す(ワークシートとスプレッドシート両方に) ※以後スプレッドシートには気持ちが変わったらリアルタイムで入力し直す 理由を記入する。 意見を発表する。 	<p>A. 正しい</p> <ul style="list-style-type: none"> AJは若いからかわりに リーダーだから <p>B. 正しくない</p> <ul style="list-style-type: none"> くじ引きの意味がない AJ、グレイスのことを考えるとつらい 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート配付 初めの心のメーターを黒板にマグネットで示す。 心のメーターを確認しながら、児童を指名し、意見を確認する。 意見に偏りがある場合には、反対意見を投げかけ、葛藤させる。 動画の再生 内容の確認 	
<p>中心発問 ◎残されたグレイスやAJはどんな思いなのだろうか?</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 ・意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハリー、ありがとう ・ハリーのことを考える とつらい ・地球を救った嬉しさも 悲しさもある、複雑な気 持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を指名し、意見を確 認する。 ・心のメーターで、初めの 意見から変化のあった児童 を積極的に指名したい。
終 末 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的な気持ちを、心のメ ーターに表す ・「生命」について学んだこ とや考えたことを記入す る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童を指名し、意見を全体 で共有する。

(3) 成果と課題、今後に向けてなど

<成果>

- ・心のメーターによって考えが可視化されることで、対話を進めやすくなった。
- ・「メーターの場所が同じなのに考え方は違う」や「メーターの場所は違うのに考え方は似ている」などに気づくことで対話の深まりにつながった。
- ・心のメーターを Google スプレッドシートに表したことで、リアルタイムにメーターの変化を表すことができ、子どもが互いの意見が変わった瞬間（他の人の意見を聞いた時など）に気づいて対話のきっかけとなったり、考えが変わった理由などを、授業者がタイムリーに聞いたりすることができた。

<課題と今後に向けて>

- ・1人1台端末でスプレッドシートに入力し、教室の大型テレビでも全体共有する方式としたことで、あらゆる場所に画面があり、児童の集中力を欠く結果となった可能性がある。
- ・児童が端末の操作に慣れるまでに時間がかかった。（やり始めは、考えをまとめるよりも端末の操作がメインとなってしまった部分もある。）
- ・端末の活用やスプレッドシートの活用はあくまで手段であるため、端末を利用することにこだわらず、よりよい形を模索していきたい。
- ・考えを可視化する方法について、他の方法（縦軸を追加したスケール図など）も検討し、ねらいに迫る最適な方法を考えていく必要がある。

2. 「自分との関わりで、自らの生き方考え方を深める道徳の授業を目指して」

(東御市立和小学校 中村 哲)

(1) はじめに

普段の教科学習の中ではなかなか発言できない児童が道徳の学習では自分の考えを发表或し、感じたことを学習カードに記述したりする姿を見かけることが多々あった。資料と自分をつなげ、自分自身とのかかわりで思ったことや感じたことを自由に表現でき、様々な見方、考え方にふれられるところに道徳の時間の魅力を感じている子どもが多くいるのではないかと思う。そんな、子どもたちにとっての道徳の時間を、より充実したものにするためにも、教師自身の価値の捉えや、資料分析、子どもたちへの発問は、非常に重要になってくると考えられる。ただ単に価値理解で終わらせないためにも、子どもたちが、自分との関わりで資料と向き合い、価値を捉え、行為の裏にある素直な思いを表出できるような授業づくりが必要と考え実践を重ねてきた。

(2) 授業づくりにあたって

授業の話を生方としてしていると、資料の分析が十分に出来ず、何を考えていきたいのかがぼやけてしまったり、指導書通りに何となく授業を流してしまったり、結果として道徳の授業自体にやりにくさを感じている先生もいる実態が見えてきた。そこで、主題に迫るための授業改善の一つとして、構想シートを作成し活用した。「主題」「主題に関わる子どもたち実態」「価値の捉え」「資料の捉え（資料の活用）」「教師の自己課題」を踏まえ「ねらい」を決めだし、「中心発問」(必

要に応じて「補助発問」を決めるという前段に立って、授業を組み立てた。

道徳授業作り構想シート（和小学校）

日 期	5月22日（金）	2学期	年 級	6年 定期
授業年級	6年定期	男子25名 女子23名	計 48名	
授業者	中村 哲			

本時扱う主題・資料は？ 主題Cー（12）規則の尊重 資料名「ピアノの音が……」

教師自身の主題（主題）の捉えは？
子どもたちがこれから迎える社会生活の中で生活していくことを考え、道徳授業を身に付けて行くことは不可欠であると考え、そのめにも身近な約束を決まり、後を守っていくことは大切である。そのために、自分の権利ばかり主張するのではなく、義務を果たす姿勢も大事である。

一方で、身近な集団や、社会生活を送る上で、互いの権利を尊重し合うことも重要になってくる。ただ単に、決められている約束やルールを守るという態度だけでは、自分の権利も相手の権利も大切にしようという態度から、自分の行動を振り返り、具体的にどんな行動ができるのかを考え、ルール（義務）は相手の権利を守るためのものという態度につなげる。

教師自身の自己課題は？
資料と自分たちの生活とをつなげる関係がなかなかで、資料の中で授業が完結してしまいがちが多い。
前半に時間をかけず、中心時間やその後の授業活動の時間が十分に確保できる。

授業前までの児童の実態（態度・学習内容、興味関心）は？
昨年度の道徳の学習や社会の学習を通して、様々な道徳の事象は理解している。権利を主張するには義務をこなさなければならないという事柄も知っているが、具体的な義務なのか、互いの権利を尊重するために、何となく一人一人に何ができるかということまで、意識が保たれていない。

教師自身の資料の捉えは？（資料の活用）
本資料は、同じマンションに住む住民同士の騒音のトラブルを扱っている。マンションで、静かにする時間を決めたのだが、それ以外の時間にピアノを弾く女性に対して、隣に住むおじさんが静かに生活したいと、マンションの管理人に訴えるという内容である。資料を読む前に、自分がマンションの管理人で、住民の間で騒音を巡るトラブルが起きたとき、どう対処しますか？と話し合ってみた。すると、「やめて下さい」という「我慢してもらう」「お願いする」「話し合う」と言う考えが出てきた。また、ルールの必要性も感じているようだった。

本時のねらいは？
住民間の話し合いの様子を捉えることを通して、ただ単に決められたルールを守るだけでなく、相手の立場に立って、どうすれば互いの権利を守れるか、そのための必要でどんな行動ができるかを考え、義務についての態度を促すように、積極的に権利を主張してもらえよう。

ねらいに迫る中心発問は？
「ルールを守ることが大切だ」という考えを、どうすれば互いの権利を守れるか、そのための必要でどんな行動ができるかを考え、義務についての態度を促すように、積極的に権利を主張してもらえよう。

この裏面に授業展開を記載

教師の自己課題

道徳の時間における教師自身の課題は何か
どんな授業を作り上げていきたいか。

授業前までの児童の実態

道徳の時間における子どもたちの様子。特に、本時扱う価値に照らし合わせたときの児童の実態や現時点での価値の捉え、深まり

授業者の主題の捉え

本時扱う授業の価値を授業者自身がどのように捉えるのか。構想段階ではこの部分を特に大事にし、価値の捉えを明確にした。

資料の捉え（資料の活用）

資料のどの部分に着目し、子どもと共に考えていくのか。

本時のねらい

ねらいに迫るための中心発問

必要に応じて中心発問を支え、ねらいについて更に深めるための補助発問も記載する。

以下、2つの授業実践から、「児童の実態」「主題の捉え」「資料の価値」を端的にはっきりさせたことで、目指す授業の姿や子どもたちの姿がより明確になり、授業の展開へつなげて行くことが出来たように思われる。

(3) 研究内容（授業実践から）

構想シートを用いて授業案を組み立てつつ、子どもたちが資料を自分事として捉えたり、友達との意見交流を通して見方や考え方が深まったりするような手立てを考え実践した。「導入の工夫」「板書」「スケール図」「役割演技」など様々な手立てを考えたが今回は「発問」に関わって、実践から見えてきたことを報告したいと思う。

①六年 「ピアノの音が」（東京書籍） 主題 規則の尊重 の実践より

○ 既存概念を揺さぶり、事象との向き合い直しを促す発問の工夫

本資料は、同じマンションに住む住民同士の騒音のトラブルを扱っている。マンションで、静かにする時間を決めたのだが、それ以外の時間にピアノを弾く女性に対して、隣に住むおじさんが静かに生活したいと、マンションの管理人に訴えるという内容である。資料を読む前に、自分がマンションの管理人で、住民の間で騒音を巡るトラブルが起きたとき、どう対処しますか？と話し合ってみた。すると、「やめて下さい」という「我慢してもらう」「お願いする」「話し合う」と言う考えが出てきた。また、ルールの必要性も感じているようだった。

<ピアノの音が住民間のトラブルに発展した資料前半を読んだ後>

T：こんな内容のおはなしでした。管理人さんは何をしたって？

C：ルールを決めた。

T：うん。そうだね。でも、解決できなかった…。ピアノの人は守っていなかったの？

C：守っていた。

T：守っていたんだよね。ただ単にルールを守るだけでは足りない物があるのかもね。じゃあ

続きを読むよ。(資料後半範読)

T:話し合いをして解決したっていきなり書いてあったね。話し合いの中身が大事そうだね。
じゃあ、二人はどんなことを大事にしながら話し合いをしたんだろう。

(中略)

T:ピアノを弾きたい人はどんなことを大事にしながら話し合いに参加していたんだろう。

C1:自分の意見だけでなく、相手の意見もちょうと聞く。

T:ちゃんと聞くってどういうことだろう？

C1:受け止める

T:何を？

C2:どんな風に困っているのかを聞く。何に困っているのかを聞く。

C3:隣の人のことを考える。

C4:相手の立場になって考える。

<考察>

みんなが気持ちよく生活するためにルールがあり、裏を返せばルールを守っていれば、みんなが気持ちよく生活できるという意識が少なからず子どもたちにはあった。しかしルールをしっかり守っていたにもかかわらず、問題が発生しているというところに子どもたちの中で少し揺れが起きていたように感じる。そこで、双方の立場から、どんなことを大事にしながら、話し合いをしていたのかを子どもたちと考えた。ある児童が「ちゃんと聞く」と発言したが、「ちゃんと」の中身を問い返した。このことにより、一人ひとりが考える「ちゃんと」の中身が浮き彫りになり、相手の立場に立って聞くことの大切さに自然とつながっていったように思う。

○行為の裏にある心情への問いかけ

当人同士の話し合いで問題は無事に解決したという内容を確認した後、それぞれの当事者は、どんな気持ちだったかを聞いてみた。ピアノの音がうるさいと訴えた側は「解決できてよかった」「すっきりした」と全員の子が落ち着いたが、うるさいと言われた側の気持ちを投げかけたときに、「すっきりしない」と発言する子どもの姿があった。

T:じゃあ、ピアノを弾いていた人はどうだったかな？

C5:嫌な気持ちもあったんじゃない？

T:どういうこと？

C5:いやさ、向こうは言いたいこと言えてすっきりすると思うけどさ、こっちはそれを聞いて、言いたいけど、言い返せなくて、ごめんなさいって言うだけだから。自分だったら、言いたいこと言えなくて我慢しちゃうから、すっきりしない。

C6:わたしも。こっちの事情もわかってよって思う。

T:なるほどね。

C7:おれは、すっきりする。

T:なんで？

C7:だって、相手の言いたいことがわかったし、それで、問題が解決したから。

(中略)

T:さっきさ、うるさいって言った人のことを考えたときC8さん「自分のことだけでなく、相手のことも」って言ってくれたけど、相手のことってどういうことだろ？どうすれば、すっきりするの？

C8:ありがとうって言うてくれれば、すっきりする。

T:C5さん、どう？

C5:うん。それなら、すっきりする。

<考察>

この発言をきっかけに「こっちの事情も分かってほしい」との発言。また「私だったら、譲らなきゃいけない部分があるから」「ぼくだったら、言ってもらえてよかったって思ったからすっきりする」と自分と主人公を重ねながらも、自分の素直な思いを発言していた。



ただ単に、行為とその結果だけでなく、その裏にある心情を考えあつたことで、自分と重ね、それぞれの見方や考え方を伝え合うことにつながったのではないか。互いの意見を聞き合ったり、どうすれば自分自身がすっきりするのかを考えたりしたことで、一方が相手のことを思うだけでなく、双方が相手の立場に立つことが大事だと言うことにも気づくことが出来た。

②六年 「手品師」(東京書籍) 主題 誠実に明るい心で の実践より

○子どもたちの中にうまれる「迷い」から自分事につなげる発問と問い返し

本教材は、あまり売れない手品師が大劇場のステージに立てるチャンスを捨て、一人の男の子と交わした約束を守るという内容である。授業導入で、迷った経験はだれにでもあるということ、そして迷いを抱えながら生き続けるということは決して心地のよいものではないということ子どもたちと確かめ合いながら、同じように迷いながら大きな決断を迫られた手品師の話へと入っていった。手品師の資料を読んだ後、自分が手品師だったらどちらを選ぶか、子どもたちに問いかけると3分の1が男の子、3分の2が大劇場を選んだ。夢がありながらも、男の子を選んだ手品師の思いに迫っていった。

T: なんで夢があるのに男の子を選んだの? 大劇場に行きたいでしょ。大劇場に行きたいのに、男の子を選んだ…。何に迷ったんだろう。

<学習カードに、大劇場、男の子それぞれを選んだときの気持ちを書き込む>

T: 聞いてみたいと思います。男の子の方を選んだときの気持ちから。

C1: 明日もきつときてねと約束したから。

C2: 一人でさみしそう。喜ばせたい。

C3: 約束したのに行かないと、一人だけになってさみしくなるから

T: じゃあ迷わないで行けばいいじゃん。

C3: でもせっかく電話が来たから。

T: 大劇場の方はどう?

C1: 大劇場は夢だし、全く売れなくて金がなくて、劇場に行っても認められれば金が儲かる。

T: やっぱり出たい。。なんで?

C1: うん。お金がなくて、パンも買えないから。

C4: お金がいっぱいもらえるから。

C5: 今やらないともう出来ない。

T: 相当迷ってるね。どんな気持ちだと思う? 不安?

C: うん

T: 怖い?

C1: うん。(男の子のところに) 行かなければ、うわーっていわれるんじゃない? あの人嘘つきみたいに言われるかも。怖い。



<考察>

手品師は最終的には男の子を選択したのだが、その決断に至るまでの迷いの部分に焦点をあて子どもたちと考えた。大劇場を選ぶ理由、男の子を選ぶ理由を一人ひとりが考える中で、手品師の迷いを自分と重ねながら考える姿が見られた。それは、手品師が迷っている様子に対し「怖い?」や「不安は?」の問いに対し即座に「うん」と反応した子どもたちの姿からも推察できる。そのそれぞれの考えの中で、迷いに迷う。つまり、『状況を重ねる』→『自分事として考える』ことにつながっていくのではないか。

(4) おわりに

子どもたちは、それぞれが今よりもよりよく生きたいという思いを持っている。そんな子どもたちが、道徳の時間を通して、等身大の自分と向き合うことが、授業の出発点だと常に思っている。そのためには、やはり教師と子ども、子ども同士の信頼関係が何よりも大事になってくると思う。その関係があるから、素直な思いが授業を通して表出されるのではないか。資料との出会いを通して、そしてそこを窓口にしながら友との意見交流をする中で、新たな価値に触れること

で、自らの生き方についてと問い直したり、これからの将来を前向きに肯定的に考えられたりする、そんな道徳の授業を目指したい。

道徳の最大の魅力は教師自身も子どもと共に同じ立場で考え合い、伝え合うことが出来るところだと私は思う。その中で、今まで気づかなかった子どもの姿に気づくことが多々あった。教師という立場である以上、授業者であることはもちろんなのだが、子どもと共に学び合い、よりよい生き方を求める探求者として、これからも実践を重ねていきたいと思う。

3. 「子どもたちが多様な視点から理解し合う道徳授業」～Google ジャムボードを活用して～

(上田市立東小学校 山口名香子)

今年度は6年生の担任をしている。子どもたちが「道徳的価値を深め合う」とは、物事を一面的に捉えるのではなく、多様な視点から理解することであると考えている。友達がもついろいろな考え方に触れ、理解する中で、自分自身の行動や考え方を見直し、判断していく過程を大切にしていきたいと考え、以下の実践を行った。

(1) 主題名 「手品師」(内容項目 正直、誠実)

(2) 本時のねらい

たった一人の男の子の所へ行くことと、長年の夢である大舞台に行くのでは、どちらが本当の誠実さなのかについて考えることを通して、自分の心に正直に行動することが誠実さにつながることに気づき、誠実に生きようとする心情を育てる。

主発問：あなたが手品師だったら、どちらを選びますか。

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	あなたが手品師なら、どちらへ行きますか。			男の子	大舞台	

まず、Chromebook のジャムボードを使って、自分の立場を示した。大多数が男の子を選んでいる、大舞台を選んでいる児童もいる。ここで、「どうしてそう思うのだろう?」「理由を聞いてみたい」という思いをもった児童は、ワークシートに自分の考えを書き、全体で伝え合った。

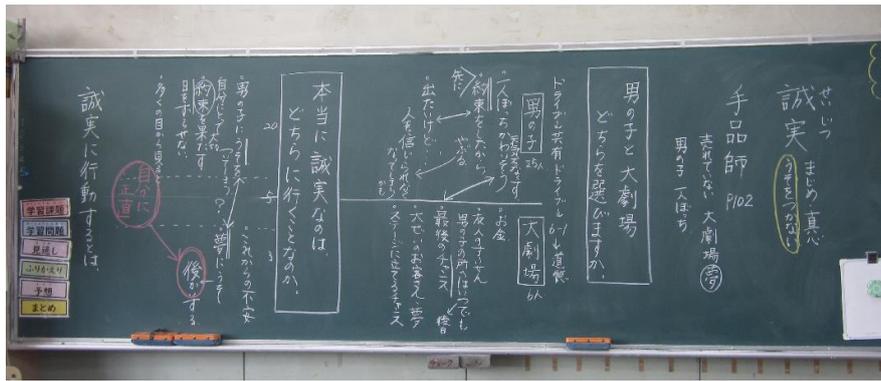
補助発問：本当に誠実なのは、どちらの行動でしょうか。

全体で考えの交流をした際、「約束は守ることが大事」「先の約束を優先すべき」「自分の夢を叶えるチャンスを逃したくない」「生活を豊かになるかもしれない」など、自分もっていなかった考えに触れることができた。児童は両方の考えを聞き、「どちらの立場の考えも理解できる」と反応をしめした。そこで、「本当の誠実さ」はどちらなのかと発問をした。この発問により、児童は「誠実さ」の意味を問い直していった。すると、どちらかをすぐには選べない、主発問の際とは考えが違う、という児童が出てきた。自分とは違う立場の考えに触れ、理解することにより、自分自信について問い直している姿であった。

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	本当に「誠実」なのはどちらに行くこと?			男の子	大舞台	

授業の最後に、「誠実とは何か」を自分の言葉でまとめた。授業中に出てきた言葉を使いながら、「誠実」について書いていた。友だちの意見を聞くことで、「誠実」のいろいろな意味に気づき、自分にとっての「誠実」を判断した時間であった。

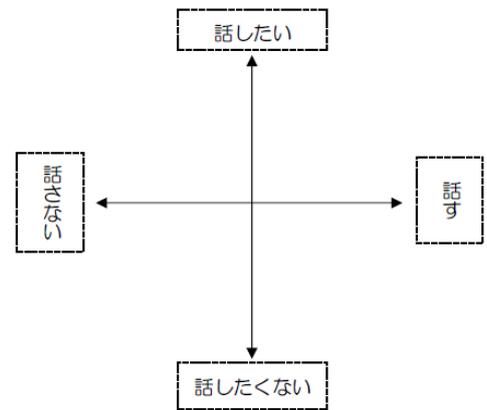
今年度導入された Chromebook を有効に使い、児童が自分の考えを伝え合い、深め合うことのできる道徳の授業を考えていきたい。



4. 『心のものさし』を使って考えを可視化した授業実践（上田市立塩田中学校 久根口 陸）

(1) 「心のものさし」を用いた理由

「心のものさし」は対立する考えや行動がある場面で、生徒が自分自身の考えをものさしのどこにあたるかを印で示すことができるツールである。黒板に示すことで、クラス全体の考えが可視化される。そうすることで自分とは相反する意見があることに気づいたり、同じ象限にいる同じ立場でもそこに印をつけた理由が異なっていることに気づいたりすることができる。



本実践では、心のものさしの軸を実際の行動と心情の2つにし、4つの象限で示した。これにより同じ行動をする人でもそこに込めた思いが異なったり、同じ思いでも行動が異なったりすることに気づき、多様な考えに触れることができる。立場ごとの考えを明確にしながらか議論を進めていきたい。

(2) 実践例

〈教材名〉 銀色のシャープペンシル（光村図書 中学道徳1）

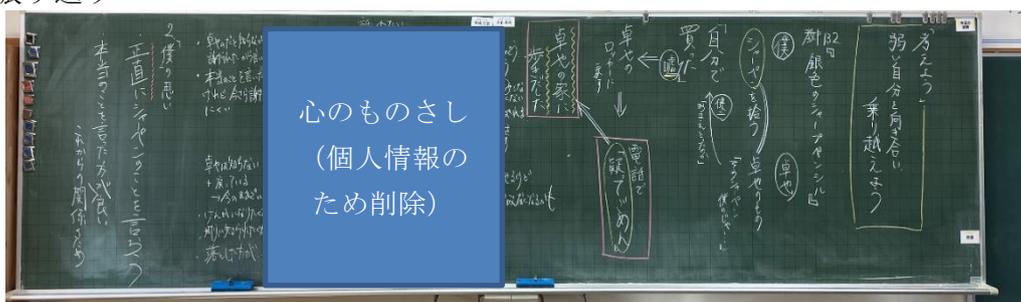
〈内容項目〉 D(22) よりよく生きる喜び

〈本時の主眼〉

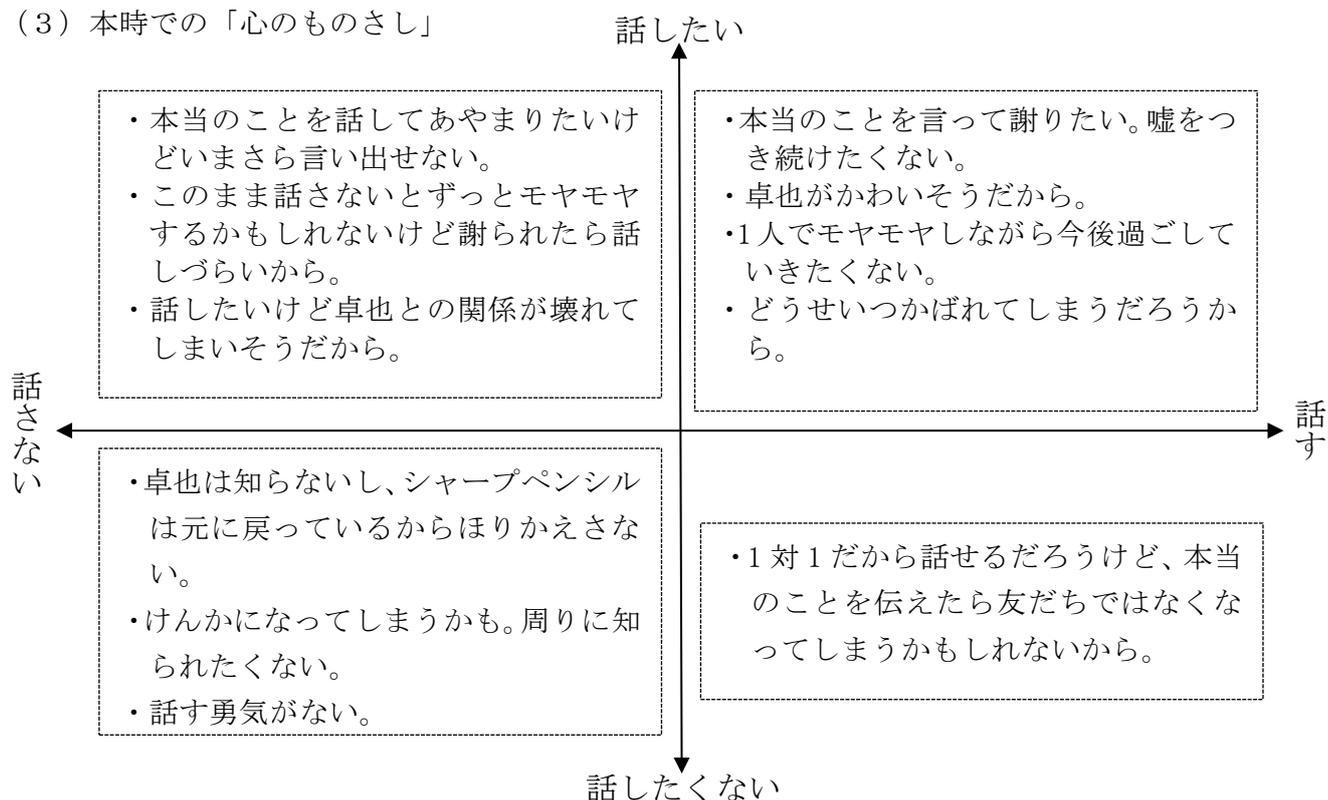
友達のシャープペンシルを拾って自分のものにしてしまったことを言い出せなかった主人公の立場で、自分だったらどうするか考える活動を通して、心の弱さを乗り越えさせるものとは何かについて考え、自分も弱さを乗り越えて生きていこうとする心情を育てる。

〈展開〉

- ①導入 「落とし物を見つけたとき、あなたはどうしましたか。またそのときどのようなことを考えていましたか。」「弱い自分と向き合い乗り越えよう」
- ②資料と出会う
- ③発問① 「もしあなたが僕と同じ立場だった場合、卓也から電話があったときに本当のことを話しますか。」中心発問
- ④発問② 「卓也の家へ歩き出した僕はどんなことを考えていたのだろう。」
- ⑤振り返り



(3) 本時での「心のものさし」



右上（第一象限）が5人、左上（第二象限）が8人、左下（第三象限）が14人、右下（第四象限）が1人という分布になった。そこに設定した理由としては生徒の発表やワークシートの記述から上記のようなものになった。左に分布しているのはなかなか自分の弱さを乗り越えられない生徒である。

A生は振り返りで「私は本当のことを言うのが怖くて言えなかった経験があるので『僕』はすごいと思った。嘘をつかずに素直に話すことができる人になりたい。」と記述した。A生は第三象限に印を置いた。自分の弱さ故に言うことができず、言いたくもないという考えだったが、振り返りから自分は言うことができないという弱さを認めながらもそれを乗り越えようとする意欲が見られた。

「心のものさし」を活用したことで、理由を考える場面や、意見交換の場面で自分や友の立場が視覚的に示されたと考えられる。本時のねらいを達成する手段として「心のものさし」が一定の効果があつたと考えられる。また、授業の終末でもう一度印をつける活動を行い、自分の考えの変化を視覚的にとらえられるようにすればさらに深まりがあつたと考えられる。

5. 「小4 人権同和教育の授業実践から」(上田市立神川小学校 梅堀 有香)

(1) 題材名 あなたのやさしさにありがとう 出典「新しいどうとく」

(2) 本時案

①主眼

道徳「ぼくらだってオーケストラ」で、友だちと互いに理解し励まし合いながら助け合うことの大切さについて考えた子どもたちが、グループの友だちの素敵な姿や友だちに対する感謝を伝える活動を通して、学級の友だちとのよりよい人間関係の形成を目指し、相手や自分の素敵な姿に気づいたり認め合ったりしようとする事ができる。

②人権的な視点

- ・友だちの素敵な姿を見つけ、相手に伝えること。(技能的側面)
- ・自分や友だちの素敵な姿を知ること。(技能的側面)
- ・自分を大切にしようと思ったり、お互いのよさを認め合ったりしようとする事。(価値・態度的側面)
- ・自分の姿を見つめ直すこと。(技能的側面)

- ・学級の友だちとよりよい人間関係を築こうとすること。(価値・態度的側面)

③評価

- ・友だちの素敵な姿を見つけようとし、それを相手に伝えようとしている。
- ・自分の今までの姿やこれからの姿を見つめ、学級の友だちとよりよい人間関係を築こうとしている。
- ・自分や友だちの素敵な姿を知り、自分を大切にしようと思ったり、お互いのよさを認め合ったりしようとしている。

④指導上の留意点

- ・あらかじめ友だちの素敵な姿を見つけられるように、事前に本時の活動について児童に知らせておく。
- ・ChromeBook の Jamboard を活用し付箋に書き込む場面では、タイピングが苦手な児童にローマ字表を見てもよいことを伝える。
- ・友だちの素敵な姿を見つけることが難しい児童には、授業や給食、清掃など学校生活の場面について、同じグループの友だちがどんな姿であったか思い出すように声をかける。

⑤展開

段階	時間	学習活動と教師の発問(○)	児童の反応(・)	人権教育の配慮(・)と、評価(□□□)
導入	3	<p>1 前時の内容を振り返り、本時の活動につなげる。</p> <p>○前回の「ぼくらだってオーケストラ」で、どんなことを考え合いましたか。</p> <p>○みんなも、友だちに助けてもらったことはありますか。</p> <p>○そんなとき、感謝の気持ちを相手に伝えられていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の苦手なことも、友だちと協力すれば乗り越えられること。 ・友だちのよさや手助けを受け入れようとするのが大切だということ。 ・授業でわからないことを教えてくれた。 ・掃除で自分の分担を手伝ってくれた。 ・困っているときに「どうしたの」と声をかけてくれた。 ・「ありがとう」と言えた。 ・言わないで、そのままにしていた。 ・いつも一緒にいない友だちだと、恥ずかしく言いづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の出来事を思い出し、自分が友だちにやってもらったうれしかったことを発表するように促す。 ・感謝の気持ちを伝えることができなかった意見も尊重し、本時のめあてにつなげていく。
すてきなすがたや感謝の気持ちを伝え合おう。				
展開	10	<p>2 Jamboard を活用して、グループの友だちの素敵な姿や、友だちへの感謝の気持ちを付箋に書き込む。</p> <p>○グループの友だちの姿を思い出して、付箋に書き込みましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のときに、たくさん手を挙げて自分の考えを発表していてすごいね。 ・掃除のときに、無言清掃で真剣に雑巾がけをしていてすごいね。 ・休み時間、友だちに自分から声をかけて一緒に遊んでいてやさしいね。 ・算数の授業で計算ができ 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの素敵な姿を思い出すことが難しい児童には、学校生活を想起し、ささいなことでもよいので付箋に書き込むよう

		<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに自分のいいところを教えてもらえてうれしかったし、自分にいいところがたくさんあると知れてうれしかった。 ・今まで感謝の気持ちを伝えることが恥ずかしかったけれど、伝えることができてうれしかったし、心がすっきりした。 ・これからは、自分のいいところを生かして、友だちと助け合って過ごしていきたい。 	<p>相手や自分の素敵な姿に気づき、認め合おうとしている。 (記述・発言)</p>
--	--	--	---

⑥見ていただきたい点

<グループ活動について>

- ・友だちの素敵な姿を伝える際の子どもたちの様子
- ・グループでの発表にしたことによって、子どもたちが自己表現できる場となっていたか

<ICTの活用について>

- ・Jamboardの活用、その際の子どもたちの様子
- ・友だちの素敵な姿を伝えたり、自分の素敵な姿を知ったり、友だちの様々な思いを見合うことができていたか

(3) 本時での子どもたちの様子から

①グループ活動に関わって

- ・具体的にどんなことを書いたらよいのか迷っているときに、同じグループの友だちに「どんなやさしさを書けばいいんだっけ？」と素直に聞く姿が見られた。
- ・打ち込むのに時間がかかってしまった児童がいたが、発表の場面では「付箋に書けてないけど言うね。」と、進んで友だちの素敵な姿を伝えていた。
- ・自分の素敵な姿について「そんなことしてたっけ？」と、本人が気づけていない行動があったときに、「ほら、あのときに…」と、付箋に書かれていないことも付け加えて伝えている児童がいた。
- ・素敵な姿を伝えてもらった子どもたちは、恥ずかしそうな表情であったが、笑顔が見られ、照れているような、うれしいような感情がよく伝わってきた。
- ・自分の素敵な姿を伝えてもらったときの気持ちを聞いたとき、「うれしかった」で留まっている児童が何人もいたので、どうしてうれしいのか、どんなことがうれしかったのか、内面に迫る教師の発問があるとよかった。

②ICT活用に関わって

- ・Jamboardを使うことによって、データで保存されるので後で見返すことができ、途中でも次回につなげていくことができ、長い期間で扱うことができる。
- ・いろいろなグループのJamboardを瞬時に見ることができ、自分に書いてもらった付箋だけでなく、他の友だちの付箋も読むことができる。様々な思いに触れることができる。
- ・ローマ字入力難しい児童にとって、自分の本心を伝えられる文章を作成するのは、難しかったかもしれない。
- ・友だちの付箋を操作してしまい、学習に集中できていない児童がいた。めあてを想起させ、今はどんな学習をしているのか改めて考えられるような教師側からの声かけが必要だった。ChromeBookの使い方などのルールを決め、定着化していくような積み重ねが大切だと感じた。

(4) 主事先生によるご指導から

- ・『素敵な姿』とはどんな姿なのか、『よりよい人間関係』とはどんな関係のことなのか、具体性がほしい。
- ・素敵な姿について、ただ「〇〇がすごいね」に留まらず、自分にはできないことを進んでいる姿、苦手なことに挑戦し克服しようとしている姿、失敗をごまかさない姿、友だちのつらさに気がついてあげられる姿など、もっと子どもたちの内面に迫った深い部分まで目を向けられるとよい。

〈例〉・友だちが困っているときに、私は声をかけられなかったけど、〇〇さんは「〜」と声をかけてあげていて、すごいと思ったよ。

・前は△△だったけど、今は□□できるようになったね。

・自分から進んで◎◎していてすごいね。

☆やさしさや思いやりをもっている、その気持ちが強いだけでは、人権問題を解決することはできない。人権に対する差別・問題・課題に、どうやって向き合っていくのか、またどう向き合おうとしているのか、一人一人が自分の問題として学んでいくことが大切。そのために教師は、どうすれば子どもたちが自分の問題としてとらえることができるのか、どうすれば課題の解決につながるのか、子どもたちが考えられるような『人権教育の在り方』を考えていかなければならない。

6. 「スケール図と Google ジャムボードを活用した授業実践から」

(上田市立真田中学校 小林 弘明)

(1) 主題名 自己を高める、よりよい生き方を目指して

(2) ねらいと教材

①ねらい

他人に嫌われることを恐れ、本心を表に出せないことに悩む生徒の相談を通して、いろいろなものの見方や考え方を理解しながら、自らを高めていくことの大切さについて考えさせ、向上心を持ち、個性を伸ばしていこうとする判断力を育てる。

②教材

「嫌われるのを恐れる気持ち」【内容項目】A (3) 向上心、個性の伸長

(3) 主題設定の理由

学級の生徒には、自分たちが楽しければよいとして時間のけじめが守れない生徒や当番活動を忘れがちな生徒がいる。また、仲間意識が強く他の集団との関わりを持とうとしない集団もある。一方で、そんなクラスメートに問題意識を持ち、担任に相談をすることができる生徒や、注意の声掛けのできる生徒がいる。

実際には、問題意識を持ち行動に移せる生徒は少ない。生徒1人1人が自分自身の日頃について立ち返り、自分自身の改善点や、他人の行動の意味に気付くことが必要である。そして、他人は変えられなくとも自分を変えられること、一生懸命に自らを高めていくことが大切であること。それらに気付くことを願い、本主題を設定した。

<教材の特質と活用法>

教材のあらすじは、自分の性格に劣等感や不安をもった中学生が書いた手紙を通して、個性について考えていくものである。「僕」の個性は、人間の生き方として、ひきょうで臆病なことかという問いに、生徒自身が自分と重ね合わせながら、多面的・多角的に考えられるようにし、個性を伸ばしていく生き方について考えを深められるようにしたい。

問いを考える場面では、Chromebook の Google Chrome アプリである Jamboard を使い、クラス全員の考えをスケール図上に表すことで視覚的かつ即時的に共有したい。

(4) 展開

①普段のチャイム着席の様子を例に取り、日頃を振り返り、自分の性格をいやだと思ったことはあるか問いかける。(導入)

②教材を読み、「嫌われるのを恐れるということは、人間の生き方として、ひきょうで臆病なこと」であるか、A「そうだと思う」 B「そう思わない」 C「どちらともいえない」の中から選び、理由を考えた。自分の立場を Jamboard に表した。(図1)

